出題分析		
試験時間　75 分	**配点**　150 点	**大問数**　3 題
分量（昨年比較）〔減少　同程度　増加〕		**難易度変化**（昨年比較）〔易化　同程度　難化〕

【概評】

例年通り大問 3 つで構成され，設問数は昨年より増加した。出題形式については，昨年に比べて語句記述問題が増加した一方，正誤判定問題が大きく減少した。また，今年の 2/6 日程のように，資料読解を必要とする設問がみられた点も特徴的だった。各時代から満遍なく出題されたが，昨年よりヨーロッパに関する出題が減少した一方，アジア諸地域に関する出題が増加し，今年も文化史関連の設問は少なかった。昨年に比べて判断に迷う設問が増え，資料読解問題も扱われたことを考慮すると，全体的な難易度は昨年よりやや難化したといえる。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	西アジア史 （前近代）	設問 1・設問 2：すべて標準的な内容であるため，確実に得点したい。設問 3：やや難問。ヒジュラの年号を覚えていれば即答できるが，そうでなければ判断に迷う。設問 7：やや難問。タバリーのほか，フィルドゥーシーやウマル＝ハイヤームもイラン系であることを覚えておきたい。設問 9. 設問文は「歴史的シリア」という概念を前提に問うているが，受験生は一般的に地中海東岸地域の北部をシリア，南部をパレスチナと認識して学習しているのではないか。設問 13. X：ウマルはムハンマドの死後に選出されたカリフであるため，誤り。Y：ヒジュラ暦（純粋な太陰暦）の特徴を知らなくても，「奇数の月が 30 日」「偶数の月が 29 日」や第 12 月が「偶数月であるが，30 日となることがある」をヒントに考えれば，ヒジュラ暦の 1 年は 354（もしくは 355）日となり，太陽暦の 1 年（365 日）との差は約 11 日となる。したがって，3 年で約 1 か月の誤差が生じるため，月と季節は一致しないとわかる。Z：リード文の最終段落などの内容をもとに正しいと判断できる。	標準

Ⅱ	イギリスによるアジア進出 （近世～近代）	設問 2．イ：やや難問。この戦争に勝利したイギリスは，南インドにおいてフランスに対する優位を得た。オ：「徐」の誤字に注意したい。設問 3．(1)：ザミンダーリー制がベンガル管区で，ライヤットワーリー制が主に南インドで実施されたことも覚えておきたい。(3) － (b)：ガンディーが帰国してインド国民会議に参加したのは第一次世界大戦中の 1915 年。	標準
Ⅲ	現代史 （南北アメリカ大陸など）	設問 1．(c)：やや難問。共産主義者などの監視強化を目的に設置された中央情報局（CIA）は，冷戦後はテロ関連の諜報活動も行っている。(1)：やや難問。翌年のバンドン会議と混同しないように，内容も含めて覚えておきたい。設問 5：1946 年のリオ協定にもとづき，翌年の第 9 回パン＝アメリカ会議で成立した米州機構（OAS）は，アメリカ合衆国の反共封じ込め政策の一環。設問 6：「漢字で」という設問文の指示を見落として「5 原則」と書かないように注意したい。設問 8．(a)：チリではアジェンデが社会主義政権を建てて主要産業の国有化を行った。その後，軍部のクーデタによってアジェンデ政権を打倒したピノチェトが独裁を行い，左派を弾圧した。(b)：アルゼンチンの民政移行は，フォークランド戦争の敗北を機に，1983 年に行われた。イギリスのサッチャー政権の時期とあわせて覚えておきたい。	やや難

合格のための学習法
同志社大学の入試世界史は，標準レベルの知識で解答できる設問が比較的多く，極端な難問は少ない。今年の本日程では正誤判定問題が減少したが，日程によっては十数問出題されることもあるため，文化史対策とあわせて過去問演習を万全に行っておきたい。語句記述問題も毎年出題されるため，漢字用語を正確に書く練習をするのはもちろんだが，カタカナ用語の表記にも気を付けたい。例年，同志社大学は入試講評で受験生のカタカナ表記に対する注意喚起を行っている。判別できない字は誤答とみなす可能性も示唆しているため，油断しないようにしたい。加えて，同志社大学の入試は解答用紙が独特であるため，特に記号問題は解答欄を間違えないように細心の注意を払ってほしい。